

第5回佐倉市地域福祉計画推進委員会 議事録

開催日時 平成30年3月16日（金）午後3時00分～4時45分

開催場所 佐倉市役所1号館3階会議室

出席委員 佐々木 とく子、佐川 章、深沢 孝志、稲村 多恵子、小林 眞智子、
宇田川 光三、石原 茂樹、小原 和夫

欠席委員 西廣 直子

事務局 佐藤 幸恵（福祉部長）、菅沼 健司（社会福祉課長）、
小林 知明（社会福祉課管理班長）、櫻井 裕樹（社会福祉課地域福祉
班長）、福山 聡昭（社会福祉課主査補）、山本 あずさ（社会福祉課
主査補）、杉山 拓巳（社会福祉課主任主事）、堀川 洋一郎（社会福
祉課）

柳田 晴生（企画政策部参事・オブザーバー）

傍聴人 なし

〔 顛 末 〕

1. 開 会

2. 議事録署名人の選出について

前回の委員会に引き続き、委員名簿の順に輪番制で2名が務めることが承認され、今回は、佐々木委員・佐川委員が任命された（西廣委員が欠席のため）。

3. 議 事

（1）中間報告とりまとめについて

【資料1】中間報告（最終案）について、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

中間報告（最終案）については、前回12月21日の推進委員会ではたくさんのご意見をいただき、事務局にもご苦労していただきました。それと合わせまして、関係各課への最終確認を経て、改訂された箇所について、事務局から説明がありました。

これに基づいて、ご意見、ご質問等ございますか。

前回のときは本当にたくさんいろいろな意見を出していただいております。それに基づきまして、最後のところに、46頁の「計画の推進が…」というところにまとめて、加筆させていただいております。これが次期の計画の中に、活かされていくということで、お考えいただければと思います。

何かございませんか。これが今日このメンバーで行う最後の推進委員会になりますので、中間報告を固めるうえでも、これを見ていただいて、またご意見等を出していただければと思います。いかかでしょうか。

【委員】

気になっていることがあって、「我が事・丸ごと」の件ですが、これ今、豊中市はやっているらしいのですが、他の市はまだあまり動いていない。インターネットで調べてきたのですが、「地域共生社会 実現への課題」、というNHKの時論公論で、9月29日に何か書かれているのですが、まだ国の動きが、イマイチ。そこで、このトーンとして、「検討すべき」と書かれているが、盛り込む、見ていく、見守る、様子見というレベルではいいが、「すべき」という強い表現でいいのかなと思っている。大きな投げかけなものですから、まだ、どう動くか、国のほうで、あまり見えていない。豊中市が少し進んでいるみたいだが、少し地固めというか、そこら辺の様子を見てから、動き出しても、遅くはないのかなと。法改正で、さっそく取り入れるというのは、動きとしては素晴らしいことだが、まだまだそういう部分について、少しずつ、中身を検討しながら進めるというほうが、この表現の仕方として、いいのではないかなと思いますけど、いかがでしょうか。

【会長】

確かに、地域福祉フォーラムを見ていますと、いろいろな社会福祉事業の関係者たちが、いろいろな地域で協力しているというのも、1つの社会福祉法改正の中での、国の動きをそのまま受けたものにもなっているのですが、今おっしゃったように、「検討すべき」と言われると、もうそんな時期なのかというように思える部分もあるように思うのですが、その辺はいかがですか。

【委員】

法改正から来ているのだと思う。ここで言っているのは、こうあるべきと、こうありたいと、考え方について、地域福祉計画に盛り込むことを検討すべきと考えます、というものでそれほど抵抗はない。方向性が間違っているのであればしょうがないし、「検討」という言葉がなければ問題だが、その辺はどうなのでしょうか。柔らかに表現するかどうか。

【事務局】

みなさんおっしゃるように、社会福祉法の改正がされて、実際には法律は平成30年4月に施行だということで、早ければすぐにでも、地域福祉計画に盛り込みなさいと国のガイドライン上は言っている。ただ、中身が中身なので、計画そのものもそうだが、市として、いかにどこまでやるかというのが、きちんと明確にならないかぎり、計画には書けないと思っている。というのは、すごく大きな話で、ここで求められているのは2つあり、ここにも書いてあるが、地域で課題解決する仕組みを作りなさいという部分と、包括的な相談体制を作りなさいという部分の2つが市に求められているものになっています。これはすごく内容が大きくて、どういう単位でやるかという部分がすごくキーになる、今ですと、包括圏域が5圏域というかたちになっていますが、それをキーにしてやるのか、もっと小さい単位でやるのか、非常に市としても悩ましい部分が

多数あります。なので、ここは、消極的と言われてしまうかもしれないが、慎重に、福祉部だけで収まる内容ではないので、まだ具体的には決められないが、市全体で、市としての考え方を整理したうえで、挑んでいかないと、やりますよ、やっぱりできません、というのでは済まないと思いますので、慎重に市としてのやり方が決まったときには、盛り込んでいくというような手順にしたいと、担当の考えだが、そのように考えた結果、「検討すべき」という表現にとどめています。

【委員】

今、事務局が言われたように、佐倉市には佐倉市の総合計画というのがある。その中で、福祉部で、社会福祉課で、いろいろ課題を研究していく中でも、もう1課や1部だけでは解決できないような課題がいっぱいある。やはり本来は、全庁的な取り組みの中で、特に福祉の課題というのは、地域に密着した課題があるので、私はこの程度の表現でいいと思っている。

【委員】

今、委員が言われた通り、時代の流れとともに、福祉計画だけではなくて、まちづくりであるとか、それから環境であるとか、防災であるとか、そういったことが、全部地域の問題が、従来以上に多様化して複合化している現実がある。そういうことの解決のために、成功している事例というのが、住民と行政と、関係諸団体、関係機関が一体となって、システムとして構築していくのだという流れができていると思う。したがって、今、委員がおっしゃったように、べきであるか、望まれるであるか、大した問題ではないと思う。ただ、全体的な方向性として、こういった計画を成功させるためには、そういう方向で物事を考えていくべきだという位置づけを明確にするということが一番大事ではないかと思います。それは言葉を変えると、ソーシャル・キャピタル、社会資本の充実というのに結びついている、というような、私は気がする。

【会長】

ありがとうございます。事務局の説明、今、お二方から意見が出ましたが、どうでしょうか。

【委員】

「検討すべき」にこだわりはありません。事務局がおっしゃったように、やっぱり1つのきっかけはそういうことに端を発して、市役所全体でやるというところの、1つの福祉の観点から、とりあえず取り組んでいくというようなものが見えれば、いいのではないかなと思います。強い思いというのが見えれば、それはいいかもしれない。福祉部から、社会福祉課として、そういう強い思いを、国のガイドラインに対して協力するという姿勢がここで見えれば、基本的にはいいと思いますし、推進委員会のこのレポートとしても、歓迎すべきことかなと。

【事務局】

今、事務局から申し上げましたし、また、委員もおっしゃったように、「我が事・丸ごと」はもちろん、福祉部だけではできないし、健康こども部の子どもの部分だけでもできないし、学校とか、住まいとか、あとは交通だったりとか、いろいろな部分があるので、市のほうで作っているいろいろな計画、例えば、福祉部の中では、今年度の高齢者の計画、障害者の計画の両方を作っているが、やはりどちらの計画にも、「我が事・丸ごと」を少しずつ入れてきている。なので、今回のこの中間報告は、こちらにもあるように、委員会のお名前で、会長名で市長宛にいただいて、それを受けて、私たちが市のほうで、これをこれから少しずつ検討していきますという流れを持つものになるので、表現としてはこのままとさせていただければいいかなとは思っています。

【会長】

ありがとうございます。そういうかたちで、やっていくということで、よろしく願います。他はございませんか。

【委員】

住民の参加の促進というのに焦点を当てるとしている。私は、よく販売促進なんかに携わっていたが、促進するということは、情報の発信者と受け手という2つあって、受け手に発信する情報が的確に伝わらなければならない、伝わって理解されて、それに対して関心や興味を持っていただいて、動機に結びついてくるというような、気がする。最近、ネット社会なので、一種の興味とか、話題性でもって一気に爆発してしまうことがあるが、基本的にはそういう流れ、今回の、広報紙、ホームページも全部見ましたけれども、どの程度受け手、読んだ人がどんなかたちで受け止めてくれたのかなという、1つ疑問が起きました。それは、今後検証するというかたちになっていて、結果を是非期待して待ちたいと思うのですが、あの広報紙の小さな枠の中に、あれを読んだ方がどの程度いるのかなという疑問が起こった。それから、チャンネルさくらがある。それから、近隣には、ケーブルテレビなんかがあるし、千葉日報や他のメディアがある。今後はそういった、ある程度、魅力のある、話題性のある情報を提供して、それを番組化していくとか、それはメディアがやるとか、そういうかたちで、広がりを見せるというのが1つの活動の方向性としては、我々はメディアミックスという言い方をするが、そうでないと、皆さん方のお話の中に、話題として上がらないとか、強い関心が涵養されるとか、そういった状況というのはなかなか生み出しにくいのではないかなと。調査した事例というのは、大変立派な、包括的な、法改正に合っているかどうかは別として、とても魅力的なまとめ方をしていると思うが、ただそれが伝わっているかどうかの手段で考えると、もう少し検討する必要があるのではないかなというような気がした。

【会長】

ありがとうございました。本当に住民の参加の促進というのは難しいという

部分もあるし、こちらが発信したことが、どう受け入れられて、地域でどう発展していくのか、その部分を本当に考えていかなければならないのかなと感じています。そういう意味では、前回の地域福祉フォーラムのようなものが各地域でももっと行われれば、地域でも違ったかたちでできるのかなと、1つ私自身感じました。また、本当にこう、利用の仕方、なかなかそういうものって、役所は上手くないので、そういうものはもっと民間さんの知識とか何かをいただきながら、やっていけたらいいのかなということを感じました。他にどういう感じ方がありますか。こういうことをやればもっと、市民の方と一緒にやれて、いろいろなところの参加の促進ができるとか、いかがでしょうか。委員、ボランティアをやっていて、その辺はどうでしょうか。

【委員】

私たちも研修会とかいろいろやるが、やはりこう、来る方はいつも決まった方。それから住民の方たちも、いろいろなサロンの中で、ちょっと研修会のようなことをすると、やはり同じメンバーで、実際にボランティアに繋がっている方。だから、まだそういう場面を知らない方、この市民意識調査のアンケートを見ても、すごく隣近所との交流は必要だけれども、実際他人事の部分、あまり自分にふりかかってくると、ちょっとそれはという結果が出ているので、やはりそういう人たちが、本当に必要なのだと、自分が動くことによって、地域に参加していると実感していただけるようなことを、私たちボランティアの団体のほうでも、企画していくのだが、なかなか難しい課題です。

【会長】

みな課題で、どこに行っても金太郎飴。太い金太郎飴を作る必要もあるのではないかという話もよく伺うが、確かに難しいけれども、一步踏み出さなければ、何もできないのかなというかたちは思うのですけれども。社会福祉協議会のほうは、いろいろなかたちで、市民の方に発信しているのかなと思うのですけれども、もっとプラスで、発信できるような方法だとか、そういう方法はありませんか。

【委員】

地区社協のみなさんとお話するときに、必ず出てくるのが、後継者をどう育てるのか、福祉委員のみなさん、全部で約1,350人いますが、おそらく平均年齢は70歳ぐらいになっているのではないかと思います。若い方が、地区社協の活動になかなか参加が促進できないというところで、悩んでおりますが、その折に、どういうことを伝えていけば、そういう若い層、次を担ってくれる人たちが活動に参加してくれるかというところで、あまりこう多くを求めすぎると、やはり住民の方々、よいことだけれども、自分にとって負担になってしまうと、それはどうしても引いてしまう。国の方針も、地域の力が大事なのだよ、地域で、住民同士で解決するのが大事なのだよというのは言うのだけれども、ともすると、住民の困りごとは住民で解決しなさいと、本当に投げら

れている印象がどうしてもある。そこで、どの程度、地域住民は、住民の力で関わったらいいか、できる範囲はどの程度なのか、そういうことを少し考えて発信していかないと、なかなか、もう住民の力でやっていくのだから、責任を持ってやらないとだめなのだよとなると、ちょっとみんな引いちゃうかなというところがちょっと気になるところです。地区社協活動でも、イベントというとその参加しやすいのですけれど、継続的な活動となると、途端に関わる人の数が減ってしまう。年1回のイベントには何十人も関わるけれども、継続的なサロン活動とか、見守り活動になると、純粹に数人になってしまう、というところがあって、そこをどうしていくかというのは、少し知恵を絞って考えていかないといけない。行政や市社協、住民のそれぞれの役割というのをもうちょっと明確にしていけないといけないのかなと。悪い言い方をすると、我が事・丸投げということを言う。そういう意識を市民に与えてしまうと、後退してしまうので、社協も考えなくてはならないが、どういったかたちで投げていったらいいか、ちょっと検討していきたいなと思っています。

それと、もう1つ、最近気になるのが、今のとはちょっと別だが、直近の厚労省の資料なんかを見ると、「我が事・丸ごと」という単語がかなり減ってきてしまっている。地域共生社会という言い回しが全面に出てきて、「我が事・丸ごと」という単語がだいぶ少なくなってきたので、このまとめはこれでいいと思うが、次期の推進に向けては、国の考え方とか、言葉の使い方を、ちょっと注視する必要があるのかなと思います。委員がおっしゃったように、国もたぶんいろいろ迷って悩んでいるのだと思う。どんな方向付け、どんな言葉を使って、国民に発信していこうかと悩んでいるところだと思うので、事務局がおっしゃったように、見定めながら、作っていく必要があると思うし、それには国の流れを注視していく必要があるのかなと感じました。

【事務局】

今、非常に分かりやすかったのですが、市と地域の方と、役割と言っては変だが、そこをどうするのかというのがあって、市は基本的に先ほど言ったように、大きな仕組みを、市としてはこういう考え方で、市全体でこうやりましょうというのが市の役割で、各地域でできることをやっていただくのが、基本的な役割分担なのかなと思っています。役割でも、後継者がいないとかそういう話の中で、地域福祉フォーラムの中で、ローズクラブさんというのが、子どもまで巻き込んだかたちで、自分たちができることを、緩やかなかたちで、すごくいいなと思ったのが、新1年生を紹介しますというかたちで、その新1年生をそこに呼んで、この子たちが新1年生だよと、それで顔を合わせることで、地域で見守りができたりとか、顔と名前が分かれば、地域で声掛けがスムーズにいくような。それで、その子どもたちが大きくなって、だんだん自然と福祉活動、地域活動にも参加していくような、ああいうのが流れなのかなと、その場ですごいなと思った。本当に地域に根差したかたちというと、緩やかな

繋がり、できる範囲のものというのが基本なのかなというのは思っています。それを、いかにうまくこう地域でできるかというのが、仕組み、どうやっていくのかというのが、市に課せられているものなのかなと。それをこう、国が言っているからということで、持っていけるのかどうか、冒頭におっしゃったように、基本的には国はこう言っているけれども、佐倉市としてはこういう資源でこうやりますということを明確にしていくべきだと思うので、そういう意味で、慎重に考えて、実行したほうがいいのかと、先ほどの続きですけれども、そのような感じで考えています。

【委員】

今、事務局がおっしゃったように、次世代へ繋いでいくという意味合いでは、社協内部で少し話をしているのが、福祉教育という取り組みを社協はずっとやってきているが、今までやってきたことというのは、子どもたち、若い世代から、例えば、障害を持っても強く生きているというような、ノーマライゼーションを植え付けるための福祉教育というのをやってきたのですが、今後は、それだけではないだろうと。地域でこういろいろな人と助け合っていく時代が来る、来ているのだと。そのためには、まさに「我が事・丸ごと」なのですから、いろいろな世代が、それぞれの立場で、参加できることを考えていくことが大切。そういう福祉教育に取り組む必要があるのではないかとというのは、内部でも少しずつ話をしている。社協としては、そういった取り組みを若い世代や子どもたちにも向けていけたらと考えています。

【委員】

先ほど45頁から読み上げていただいて、その流れは、やはり地域における支え合いとか、助け合い活動をどう展開させていくかということにあると思うのですが、話題を変えて、現実には、地域でいろいろなボランティア団体があります。委員のようないろいろなことをやられている方もいるし、地区社協もそうだし、いろいろなボランティア活動があるのだけれども、地区社協も含めて、自治会レベルも含めて、ボランティアの担い手は、ほとんど高齢者。高齢者をマイナス思考に考えないで、やはり、元気な高齢者が、困った課題を抱えた高齢者を支える時代、そういう位置づけで、私は前から言っているのだけれども、高齢者というと何か守らなくてはいけない、もちろん、精一杯社会のためにやってきた人たちが、介護を受けたり何かする、そういう保障はきちんとしなくてはならないが、それ以外に、元気な高齢者も結構いる。そういう高齢者を、有効活用という、ちょっと言葉がきついかもしれないが、参加できるような仕組みを作ったらいと思う。もう、金さん銀さんが生きている時代の、90歳が100歳という時代は過ぎたのであって、発想を少し変えて、地区社協だって、いろいろな敬老会とかを支えているのは、70代から80代の人、招待者を支えている、ほとんどそう。そういう現実を見ないと、ただこうあるべきだと言っても、私は地域でいろいろな、防災にしろ防犯にしろ、ボラ

ンティアに携わっているが、結局はほとんど高齢者。それも元気な高齢者。そういう人たちを見ていて、元気な高齢者が、困難を抱えた高齢者を支える時代だなという風に思っている。具体的な事例として、私は防犯パトロール関係を一生懸命にやっているが、臼井台地区の防犯パトロールを見てみると、15年ぐらい前に始めたが、最初のうちは、どちらかというと押し付けの、犯罪が多いから、やむを得ず町会で取り組みましようというような調子でやっていて、3年続けばいいかなと思っていたが、今は、途中経過は別として、自分の健康のため、仲間づくりのため、そういう思考で、その結果、犯罪抑止という社会貢献に繋がるということが分かってきた。ですから、毎週、4つの町会でやっているが、25人〜40人前後の方が、どこからともなく集まって、それで1時間ぐらい、各町会の路地までやる。その人たちの大半はもう高齢者。みんな自分が辞めたい、もう年だからと言っていた人たちが、やっているうちに、進んでやっていますね。だから、まだ、私なんか辞めろと言ってもおそらく辞めないでしょう。そういう実体験からきて、やはりもう、若い世代、子育て世代に少しでも負担をかけないようにするためには、元気なうちは高齢者も、社会貢献をしていこうということに目覚めるような、何か、防犯パトロールにしても、子どもの見守りにしても、そういうテーマを具体的に見つけて、教えていく、何かそういう風潮が必要ではないかなと感じました。高齢化をマイナス思考に考えないというのは、そういう意味です。

【会長】

ありがとうございました。元気な高齢者に頑張ってもらくと同時に、本当に地域住民がみんなで支え合いながらできる世の中というのを作っていくためにも、この計画があるといいなという感じがしました。今日の計画の方向性について、たくさんの議論をいただいているわけですが、これが最後の委員会になるわけですが、どうしても言っておきたいということはあるですか。

【委員】

ちょっといいですか。中間報告のほうに戻ります。7頁と3頁の5章のところに書かれている部分と、繋いでくれたらいいというのが私の思いです。要するに、バラバラではなくて、同じことを言っている、第5章の、1番から8番が、こうほう佐倉に第1回から第9回の掲載がされているが、注釈がない。12月1日号は何を掲載したのかと言ったら、地域を歩こう。あいさつしてみよう。がテーマで、こうほう佐倉に載っていた。これ1つせっかくなので、繋げていただいたほうがいいのではないかなというのが1つです。

この部分はホームページか何かに載りますか？（いずれホームページに載せる）。そうしたら、市民の目から見ると、この表よりも、グラフで表してくれると助かる気がする。市民意識調査はグラフか何かでやってくれている、実はこれ数字だけ並べてみても、何となく、えっ、何なの、というのが分からない。目標値というのがあって、結果としてどうなのだというのが書いてある。21

頁なんかは、設問に対して、「思う」、「どちらかというと思う」があって、時系列的に書いてあるのですが、見やすいのは、時系列比較の棒グラフで表してくれると、実はよく分かる。どういう傾向になっているか、見やすい。見やすいかどうかの話だけです。これは簡単にエクセルでできますので、別にアンケート会社にやらなくてもできるのではないかなと。そういうものを少し載せてくれることによって、逆に、インターネットで見る人たちは、見やすいというか、分かりやすい。この数字だけ比べてみても、どうなのかなというのがありますので。

それからあと、23頁と24頁のところで、固有の言葉として、「コミカレ3期生」と書いてある。また、「まち協の地域発見部」というから、井野小学校区まちづくり協議会だと思うのですが、これは、注釈は入れるべきかどうか。これはこのままで、回答のままのほうがいいのでしょうかというのが1つあります。見る人がもう少し、そこに注釈を入れてくれると、なるほどなというのがあります。同じようなのが、24頁の、10個目の○の中で、「包括」というのがありますが、これ、地域包括支援センターのことですよね。包括というのはどこの市でも共通で分かることなのではないでしょうか。佐倉市以外でも、使われている言葉なのではないでしょうか（「全国共通です」の声）。分かりました。

それから、「複層」という字があるのですが（42頁下から5行目）、こういう字はあるのかなと。「ふくそう」というのは、「車」偏と思ったのですが。漢字の誤植かなと。そういう造語かなと。こういう字があるのでしょうか。あと、15頁のところに、成果指標とあるのですが、これは基本施策①情報の発信・啓発に関する成果指標で、それ以外の成果指標、担い手の確保、地域の交流活動・福祉活動の促進というものの成果指標というのは特になかったのでしょうか。なぜこだわっているのかというと、成果指標とあって、基本施策①だけの成果指標というのは何となく奇異に感じて、どうしてここだけしかなくて、基本施策②、③の成果指標は特にないのかなと気になったところです。

いろいろ言ってきましたけど、目標値をわざわざ設定しているが、なぜ設定したのかなというのが分からなくなった。65%、50%、それから、設問3、設問4では、また新たに設定しましたと、何で目標値をやったのか。要するに、誘導したというか、65%にしたいという気持ちなのか、どうなのかなというのが、何となく、そのとき何でこういう目標値を設定したのか分からなくなったので、これは逆に忘れたので教えていただけると、という質問です。以上です。

【委員】

今の注釈の関係は、委員の言われたようにしたほうがいいと思う。というのは、一般の人に、コミカレとかまち協とか、包括というのは、一般的には分からない。コミカレだったら、コミュニティカレッジ、まち協だったら、地域まちづくり協議会、包括なら地域包括支援センター、そこに意味合いを入れてもらったほうがいいかもしれない。

【委員】

これはいいことをみんな書いてくれている。せっかくいいことを書いてくれているのだから、そういう注釈を入れることで、深みがあるかなと。

【会長】

自由記載になっているけれども、こういう思いで書いたであろうと。

【事務局】

ここはいただいた結果をそのまま載せているので、注釈として別枠で解説を書くのか、あるいは、ここにダイレクトに、コミカレをコミュニティカレッジと表現を改めたうえで、必要があれば注釈も入れるとか（「それでいい」の声）、単にコミカレだと分からないので。文言を正しい表現に、いただいた意見ですけど、修正させていただいたうえで、対応したいと思います（「それは問題ないと思います」の声）。

【会長】

そのほうがいいと思います。注釈というと、また、自由記載なので、そういうかたちで、お願いします。あとは、グラフ化など、見えやすいようなものというのは、今、話があったのは、どうしましょう、一応、事務局のほうに一任させていただいて、検討にしますか。今ここで回答していくというのは。

【委員】

すみません。申し訳ない。前回、意見を言えばよかったのだが、ずっと読み直してみると、いろいろこう文章で細かく書かれているよりも、目で見てというほうが、見やすい、一般の人は。多少、年度で違いが出てくるのであれば、2、3行でコメントするぐらいのほうが、いいかなと思っています。

それから目標値というのは、ちょっと読んでいて、あれっ、何で目標値を設定したのかなと思って、これは市なり何かがそうして欲しいなという思いの目標値かなとふっと思ったりもした。

【事務局】

すみません。グラフなどの見やすさという点は、ちょっと検討させていただきたい。そのうえで、見やすい方法を考えて、会長と最終的に相談させていただきたい。

目標値ですが、もともと第3次計画を作るにあたって、特に計画なので、成果指標は何だという中で、基本施策①については、市がもともと行っていた市民意識を追いかけようということで、出させていただいているので、そのとき、設定した4問のうち、2問は設定していて、そのとき、平成27年度当時の59%、45%という結果を受けて、それに基づいて、市の中で、内部的に、何年後にはこうしようという、実施計画の計画を鑑みて、この目標値を一応設定しています。ここに近づけたらいいなという、計画上のものです。

【委員】

何となくそれが、一生懸命こう書いていただいているわりに、伝わらない。

読んでいる方に、意外と繋がらないかなと、ふっと思い直した。結局、それに近づければいいのかなという。そうしたら、限りなく100%に近くなればいいのではないかなとふと思ったのですけど。それはやはり、8割などで、多少そこに無理があつて。

【事務局】

どういう指標で取るか、あくまで、市民意識を取るということなので、それをどう数字にするかと言われれば、この調査しか実際にはない。なので、ちょっと数字的なもので恐縮ですが、現状が、59%、45%という結果だったので、この3年、4年で、計画としては、65%、50%をこの4年間で目指しましょうという、近づけたいというものになります。

【委員】

施策評価をする場合に、目標値を設定して、現状とか、一般的な施策評価の数値としては、特に問題ないと私は思います。

【委員】

我々民間では、売上目標とかをやります。ただ、その達成が、そもそも、どうなのかなというのが少し、過去の結果から、そこに近づけたいという風にしたのかとか、要するに、売上数値の部分だったら、限りなく倍倍ゲームでいこうとかいう目標があるわけですけど、このそもそもスタートの部分、最初の、27年度にされたときに、このぐらいの市民意識としてはありましたと。それに対して、今どんどん進んでいって、少し上がっているなというのを見たいのか、それとも、27年度の現状値が59%なので、65%と比較してどうだったのか。だからその分のどれだけポイントが近づければ、結局そういう設問に対しては出来上がっていると言えるのかなというのが、もっと端的に言えば、それはなくてもいいのではないかなと思った。結局、目標があることによって、じゃあ、どうなのかなというのもありますよね。要するに、経年化的に見ていったら、その部分の目標が上がっていますよということで、限りなくそこに近づければいいなというのが、目標としてもっと言ったら、見えたと言えればいいのですかね。今の場合、設問1だったら、65%に近づければ。「思う」、「どちらかと思う」、「まで含める?」（「前は含めていたが、今回は含めていない」の声）?

【会長】

目標値をどう捉えていくかというのはかなり難しい部分もあるし、これを見ていると、行政のほうが一応目標に近づけようという努力、その部分もあるような気がする。だから、目標があるのとなないのでは、進め方が違ってくるのかなって、一瞬、思っているのですけれど。売上目標とは違ってくる。

【委員】

現状値が59%で、目標値が80%、90%だったら、そんないい加減なことを書くなと言いたくなるけれども、現実的な目標値として、65%、こうい

う表現がほどよいのではないかなと私は思う。

【委員】

基本的な考え方が、意識が高まるかたちによって、住民参加が増えるであろうということを期待しているから、現在のその意識よりも高まるという目標を立てるとするのは、当然の成り行き。私は意識が高まるのはどうかというのもあると思うけれど、実は参加するというのは別の動機ではないかなと思ったりはしている。ですから、これは役所として何かやるときに、数値目標を作りましょうというのが、一般的な習慣になっているように思いまして、私はこれはこれで、あまり厳密に問いただしてもしょうがないのかなという気がする。それとも、65%というのが、これは絶対取るべきであるという理由がはっきりしているならば、そのほうがよろしいのかなと思います。

【会長】

（「全体から難しい」の声）。アンケートの対象者が毎年違うというところ、また、目標値を書かないということも難しい。

【委員】

それよりも、何年かのもので、ほぼ横ばいで、数字が凸凹というのは、私は誤差値だと、対象が違うから、誤差値だという見方をしているのですね。そうすると、65%の根拠は何だというと、私が調べてみたら、厚生労働省が健康と栄養に関する調査というのを出していて、市民の社会参加のパーセンテージを出している。その中には、働いている人の社会参加だから、就業者の人数も入っていて、分からない。他に、基準になるものは全くない。事務局が65%を目指してやりましょうというならば、むしろ是非頑張ってくださいと私は言いたい。意外と大変。

【会長】

何か行政目標みたいになっている。

【事務局】

委員におっしゃっていただいた、市民意識の高まりによって、地域福祉が進むでしょうという論理のもとにこの計画になっているので、そこは結果として、市民意識を取りますということになったのだと思います。実際取っているものは市民意識調査がもとだったので、計画にあたって、2問追加して、取っていきましょうと。市の取り組みに関する1番の部分については、これを追いかけていきましょうと。これが高まることによって、ある意味その、ここで言っている、求めている、目指すべき地域に近づいているでしょうという考え方ですが、ただ、数字的にはこれしかなかったもので、普通、市の計画とかでも、その伸びとか、目標値はどの計画でもついていて、だいたいその実際の数値から、3年後はプラス何ポイントという設定の仕方がほとんどです。もともと、「思う」と「どちらかというと思う」という指標を合わせて使っていたので、80%を超えるぐらいの数字がもともとあったが、それだと数値としてどうなのかな

というところで、この「思う」というところだけで、追いかけていきたいと思いますというのがこの計画です。結果として、59、45%となっていたものだったので、およそプラス5ポイントというのが、4年間の設定。ただ、おっしゃったとおり、毎年毎年サンプルも違いますので、結果としても凸凹がある結果は否めないのですが、同じ方で追っていけばそうなのでしょうけども、そこは非常に難しいし、悩ましいところでもあります。ただ、目安としては、この数値が上がることによって、この計画でうたっているような、中身が進んでいるであろうと、考え方というか、理屈ばかりで申し訳ないが、そう捉えるべきなのかなというところです。

委員の先ほど質問で、基本施策②と基本施策③の指標がないのかという話がありましたが、計画に書いてありますが、基本施策①については、この市民意識を追いかけていまいしょうと、②と③については、市のほうでも各個別計画の事業がその中身になっていて、その結果を捉えて、参考とまいまいしょうと計画に書かせていただいた中で、この今回の報告の6頁以降、主な取り組みの中で、②と③の中で、各課で行われているものが、こういう状況であったと、これをどう捉えるかということでご理解いただければと思います。

【会長】

ありがとうございます。それでは、時間も押し迫っているのですけれども、もし、字句の訂正とか、そういうものがございましたら、事務局のほうにお出しいただければと思います。これで、一応本日ここでの議論の内容を踏まえまして、最終的な修正については、会長・事務局に一任させていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

【委員】

「異議なし」の声。

【会長】

それでは、ご異議がないようですので、次の議題に入りたいと思います。続きまして、次第 4. その他に入ります。事務局からの説明をお願いします。

4. その他について

【資料2】市民意識調査クロス集計表 平成29年度、【資料2別冊】平成29年度市民意識調査報告書（抜粋）と【資料3】「地域福祉フォーラム（平成30年2月24日開催）アンケート結果」について、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたけれども、何か疑問に思う点、ご意見等ございましたら、お願いしたいと思います。いかがですか。

【委員】

私も、地域福祉フォーラムに参加させてもらいましたが、自分の地域の中で、臼井西中の中学生といろいろな関係で、交流を持っているのですが、あの発表のあった、臼井西中の子どもたちが、地域のいろいろなボランティアに参加したと。赤い羽根の募金だとか、そういうのもよかったと思うが、たまたま、臼井台地区では4町会で、75歳以上の高齢者を対象にした、いきいきクラブたぐりというのを毎月やっている。そこに、11月には必ず臼井西中の子どもたちが来てくれて、臼井西中の子どもたちが、子どもたちで企画をする。我々は共に参加しているが、中学生のご指導のままだに、全部彼らの企画通りに従うのだけれども、中学生もいきいきしているし、高齢者の方も、普段、いきいきしているのだけれど、特に子どもたちが参加したときというのは、すごいですね。顔が赤くなるまで、そんな感じがするぐらいまで。やはり、今後の計画を考えた場合、子どもたち、小学校6年生ぐらいになればどうかなと思うのだけれど、特に中学生、3年生になるといろいろ忙しいでしょうから、1年生、2年生ぐらいの子どもたちを、地域のボランティアに参加させる、参加してもらって、そのような環境、また中学生が参加するこういうボランティアにみなさん参加しませんかと地域に呼びかけてもいいし、中学生が私の経験からしても、有効なことで感じていますので、今後いろいろと考えていくうえで、その辺も視野に入れたほうがいいのかなという気がします。

【会長】

ありがとうございました。本日の会議が最後になりますので、今までを振り返っていただいて、委員に参加した感想ですとか、第4次地域福祉計画に期待すること、これからの地域社会について感じていること、そういう内容について、フリートーク形式で、お話いただければと思います。

【委員】

まず驚いたのは、委員会をやってきて、事務局の方のご努力というのはすごいなと。中間報告をまとめて、びっくりしてしまった。委員会では、市民意識調査、事例調査とアンケート調査ぐらいしか主な話題はなかったのに、いざ蓋を開けてみたら、このようなかたちで、ご努力に敬意を表したいと思います。最初の会議のときに私、お尋ねしたのですが、予算がない。予算がないというのはいったいどういうことなのかなと、ずーっと思い悩んで2年が過ぎてしまいましたけれども、総合計画でもできなくて、個別計画でもできない部分というのが実はあるのではないのか。その財源はもしかすると、各企業の社会貢献活動とかに、協力してもらえる部分、あるいは、もっと市全体でやる方がいいことだねということならば、当然のごとく、予算というのは、できるのではないのか、そういう発想の転換、社会福祉課の立つ位置の発想の転換というものをごどこかで、考えてみるというのも、1つの方法かなという風に思っております。例えば、全体の社会福祉の貢献大賞というようなものを設けて、各メデ

ィアから何から動員してやるとかですね、そういうかたちでやると、協力者というのは、イベントそのものの話題性も喚起できますし、話題性が喚起されると、自然に人が集まり、その活動が活性化していくと。一番あれなのは、佐倉朝日健康マラソン実行委員会と朝日新聞が主催している、佐倉朝日健康マラソン、あれなんかも長い間やっていて、今頃、すごい数の人たちが、25日に向けて、走っておられる。お年寄りも女性も含めて、そういう1つのランドマークとなる、シンボリックな計画というのも、どこかで遊びとして考えてもいいのではないかなと、遊び心がないところで、あまり真面目に取り組んでいると、大変になってしまいますので。

【委員】

私、地域福祉フォーラムの、このみなさんのアンケートのコメントを見ていて、いつも気付いて、感じているのですが、市内でたくさんの方が頑張っておられることがありがたいな、私自身もできることがあったらやりたいなと思いました、ありがとうございましたとか、自分から進んで参加することに少し時間がかかります、大変参考になりましたとか、何かこういう眩きは大事にしたいなと思っていて、ご近所でもボランティアさんのおかげで、うまく施設なんかでもできているのよね、と言っていたお友達がいたのですが、私なんかと言っていたその方は、結局施設のボランティアを募集しているよと言ったら、ボランティアに繋がっている。何か地域で主婦の立ち話でやっても、ちょっとこう眩きか何かでも、みなさん地域にこう活動している方たちと繋げていくことになるかなと思って、立ち話も無駄じゃないなと思いながら、何かそれが大事で、ボランティアの仲間を増やしていけたらいいなと感じているのですけれど。ありがとうございました。

【会長】

主婦の立ち話は貴重だと思います。情報交換。

【委員】

私、普段、仕事として、福祉の事業所としてやってしまっているのですが、本当に専門職の間での、いろいろな連携であったりとか、介護とか、あとは行政との連携という意味で、専門職の中で何とか解決しようという連携ばかり日頃やっているのですけれど、そんな中で、こういういろいろな議論に参加させていただいて、ご意見いただいて、本当に地域にはそういう、本当に住民の方、生活の中で、一生懸命にいろいろな活動をされていて、それを推進していただいている方が、たくさんいらっしゃるって、これから本当に高齢化の時代の中、その力を少しでも多くしていけないと、支えていけないのだらうなというのを実感しまして、地元の社会福祉法人なので、この日頃の困りごとがあったから、それを何とか専門職で解決するという視点だけではなくて、こういう、ここに継続されているような、いろいろな活動をどうやったら推進できるかという、新しい視点を持って、やっていけたらいいかなと感じました。

【委員】

先ほど、地域福祉フォーラムの関係で、主催の1つとして、1つ残念だなと思ったのは、参加された102名が、ほとんどお知り合いだったので、まさにああいった地域福祉フォーラムが、身内だけでなく、まさに福祉や地域福祉についてまっさらな市民の方がたくさん参加されて、参加したことで心を動かされるというものにしていかないといけないのだなと、改めて思ったところです。どうしたらいいのかというのは、いろいろお知恵をいただきながら、今後も考えていきたいと思っています。

この委員には途中からの参加でした。今、地域の時代、地域福祉の時代というのは間違いないのだと思っています。この計画も、住民の参加を促すと、その土台となる意識の醸成をはかっていくというのが、この地域福祉計画の大きな目標だったということを改めて感じさせられました。特にさっきの目標値のことがありましたが、市民の意識を高めるということに対して、目標値を掲げるという、市の勇気に、私はむしろあの敬意を表したいという風に思っています。社協は、これまで長年地域福祉を生業にしてきた存在です。この市が掲げる地域福祉の理念、それに基づく計画作り、その推進に向けては、今後も私共としては最良のパートナーとして、力を注いでいきたい風を感じたところです。ありがとうございました。

【委員】

実は、この中間報告で取材をしていただいた、ねっこの会なのですけれど、4年目に入りまして、子どもたちの孤食とかが心配ということで、やっと子ども食堂のほうを4月からやることになりまして、そのやっしてくださる方というのを、さっき委員からもお話がありましたけれども、なかなかこの子ども食堂のスタッフを募集しますといっても来ないのですけど、その中で、地域の中で、配食サービスをやっている方とか、それから、食生活のことをやっている方とか、ちょっとこう知っている方に声を掛けると、今日も10人ぐらい子ども食堂を手伝ってくださる方が集まって、説明会をしてきたのですけど、そういったことでやっぱりこう、周りでちょっとしたこう声掛けということが、すごく大事なのだなということをすごく感じました。そのおかげで、お金のほうが心配だったのですが、地域共生社会ということで、愛光さんのほうが金銭面で助成してくださるので、これで4月からスタートできるなということで、思っています。

それから、先ほど、私も地域福祉フォーラムに参加しまして、1番は中学生、委員がおっしゃいましたが、中学生がああいうかたちでいろいろな活動に、敬老会とか、地域の福祉祭りとか、そういったところには声を掛けて参加してくれるのですけど、そうでない、ああいったところにまで中学生が入ってくるというのはすごく大事なことだなというのを感じました。そのあとで、ちょうど私、佐倉中学区なので、学校との情報交換があったときに、そんなお話をし

ました。学校のほうでも今後考えていきたいとのことで、お話されていましたが、佐倉中であったときには、防災についてちょっと中学生と地域の方とが話し合う機会があって、災害があったときは、働いている人とかは地域にいないわけですね、そういうことで、中学生が何かその中で、できることがあるかもしれないということで、中学生も参加して、中学生が結構立派なお話をされていて、そういうかたちで中学生を巻き込んでいく、どうしても子供会とかは、地域によって子供会があるのですが、中学校に入ってしまうと、お祭りでも何でもなかなか出てこなくなってしまう。だけど、何か役割をつけてお願いすると、本当に一生懸命にやってくれる。これからは、中学生、高校生をターゲットにしてやっぱりいかないと、本当に高齢化になってきて、どこに行っても高齢者の集まりで、必死になって頑張っているという感じなので、少しそんなかたちで、中学生、高校生をターゲットにして、何かこう活動を増やしていければいいかなと思っています。ありがとうございました。

【委員】

私は、2期まで務めさせてもらった。市民がどう受け取るかという、市民目線というのは大袈裟ですが、その目線で何とか考えようかなという風に思っていました。それで、その中でやっぱりあの、地区社協なんかの活動で、住民福祉懇談会というのをやっているのですが、いろいろ自治会さんから上がってきた課題を、行政に不満ではないですが、行政に上げる手段がないなど、そんないろいろ課題が出てきました。たまたまこちらのほうでは、北部の代表者会議がありますので、そちらから市のほうに上げる方法があるということで、そのメンバーが必ず懇談会に出席してくれれば、繋げられるという話になったりして、そんな生々しいことも、この委員会の場でもし発言できればというのも思っていました。

地域福祉フォーラムで、今回すごく感じて、みなさんおっしゃっていたように、やはり身内だけの会議なのですね。ところが中学生が登壇者として出てくれたので、やっぱりそういう若い人たちが、少しボランティア活動に入ってくる。それから、やはり不満を持っていて、出てこないという人が多いですね。じゃあ出て来なよと言うのだけど、出てこない、そういう人に限って。そういう人たちを呼び込むためにはどうしたらいいのかというと、地域福祉フォーラムすごくいいことをやってもらっているけれども、関心があるのだけど、行ってみるとというのが少し及び腰。なぜかなというと、PRの不足がある。今回みたいにすごくバラエティに富んで、今回素晴らしいなと思ったのですが、いろいろな圏域ごとに、それぞれ活動しているテーマがあって、それぞれ活きている。そういうのを、自治会のメンバーやこうして欲しいなと思っている人たちに、伝わればいいなと思っているのですが、伝わらない。ジレンマに陥っている。前から、そういう手段があればと、今後の課題かもしれないですけど、できるだけこういう地域福祉フォーラムのよかったよというのをアピ

ールする手段があればいいのに、こうほう佐倉に載せていただくかは別としまして。いずれにしても、やっぱりそういう、意識というのが大事なので、この委員会を通して、そういうのを再確認しました。そういうことでさせていただいて、ありがとうございました。

【委員】

先ほども言いましたけれども、何をやるにしても、例えば、行政に注文をつけて、1つの地域の支え合い・助け合い、こういうことを1つ取ってみても、1担当部署だけで、解決するわけない。ですから、行政の中で、福祉部と子育て支援のある、健康こども部は当然ですけれども、自治会とかそういうものを巻き込むためには、行政間の全庁的な連携が、必要なときにはやると、今までやりますと、検討しますと、そういうことはいつも言われているのだけれども、そろそろ本気になって、全庁的な取り組みはやるときにはやると、そういう覚悟を、強く求めたいと思う。そういう必要性があるなという風に思いました。

そういう中で、地域の支え合いの場合には、当然、市の社協、地区社協との連携というものの当然必要ですから、先ほど委員からもあったように、そういう連携も特に求めていきたいと、しなければならないと。具体的にいろいろな方から中学生の話が出ましたが、確かに、地元の校長先生と話をするが、いざというときに、大災害があったときに、中学生は学校にいるときはしょうがないが、普段、地域に中学生がいるときには、戦力になりますよと、大いに使ってくださいと。現にさっきの臼井西中は、防災訓練にも参加してもらっている。いつも40名か50名ぐらいが参加してくれるのですが、彼らは最初の手順だけ教えれば、炊き出し訓練にしても何でも、積極的にやってくれる。最初のうちは戸惑っているけれども、慣れてくると、何でもやる。何かやることありませんかと。何か中学生ぐらいを何かこういろいろな意味で活用するというのは語弊があるが、一緒にやる、地域の支え合い・助け合いの一助に中学生になれるようにしていくのも1つの手だなという風に思います。

【会長】

ありがとうございました。最後に、会長として務めさせていただきましてけれども、本当に事務局のまとめが素晴らしくて、何かすごく支えられてきました。本当にありがとうございました。私、この地域福祉フォーラムの中で、催し物のたびにアンケートを取るが、その結果を今まで聞いたことがない、あなたはありますか、というこの一文がすごく引っかかっている。だから本当にこれは、これからの住民参加を促進するうえでは、本当に情報の発信をどうしていくのか、その辺をきちんと考えていかなければならないのかなというのを感じたアンケートでした。本当にありがとうございました。それでは事務局に進行を返したいと思います。よろしくお願いします。

5. 閉 会